平成24年7月3日　00073号
編集者:佐 藤 寿 春
北見市幸町８丁目4-4(佐藤整骨院内)
NPO法人北見市武道振興協会事務局発行
直通:090-5986-0839
代表:0157-61-4804　Fax:0157-23-0581
satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

北見武道通信

ニュースレター【名論卓説】

莫　妄　想

北見市弓道連盟会長　坂井清治

日本の弓道は，天照大神の時代から現代にいたる歴史ある日本文化です。日本弓道の弓の長さは、世界中で一番長い弓です。背丈の短い日本人が、なぜ長い弓を使う様になったのかは、諸説がいろいろありますが、日本の場合神格化されたものだと思います。そして握りより、上が長く下が短い黄金比の割合になっておりますので、物理的に考えても一点で押すと、矢は必ず上に飛ぶと言う非合理的なものであります。的中のみを考えれば、絶対アーチェリーの方が中ります。ただ弓道は現在海外で大変はやっております。2007 年、国際弓道連盟が設立され、その年の 4 月 12 日に記念大会が日本武道館で開催されましたが、挨拶の中で、ドイツ大使は、「日本の弓には、アーチェリーには無い美がある。ヨーロッパでは、その美を求めて多くの人が、頑張っております。」と挨拶されました。

我々は、全日本弓道連盟で発行しております弓道教本をバイブルに修練しております。教本の巻頭に「礼記射義」と「射法訓」が日本弓道の理念として掲載されております。「礼記射義」は四書五経の中の「礼記」の中で、弓道を行う時は、儒教の教えに従い、礼法に適った方法で行射するよう記載されております。

「射法訓」は、尾州竹林派の吉見順正と言う人が書かれた行射する上の基本を述べているのですが、その前文に「弓道の修練は、動揺する心身で、押し引き自在の弓を用いて、静止不動の的を射るものです。非常に簡単に見えるが、心が乱れ、朝出来たものが、夕べには出来ない。よって自分を顧み、心身を正して、正気を養い、正技を練り至精を尽くして、修行に励むの一途有るのみ」と書かれております。

我々も、射位に立ち的と対峙し、自分と闘う弓道を修行道とし行っておりますが、毎日が反省の日々であります。己を見つめる心が無ければ、射芸の厚み・深み、射が醸し出す品位・格式で、見る人に感銘を与える射を得るのは、不可能であります。

見出しの「莫妄想」とは、当時の全日本弓道連盟会長、範士十段（新日鉄社長・日本経団連会長）が、昭和 60 年 1 月号の弓道誌の巻頭言に書かれた言葉です。この言葉は、元寇第二回目の襲来のとき、北条時宗は勝てる見込みがなく、時の有名な禅僧・無学祖元に相談した時、「莫妄想」と紙に書き、「戦う以上に余計な事を考えるな」と言われ、時宗は腹を決めました。弓道もこの辺で矢を離せば中るとか、カッコ良くしなければならないという事等考えると失敗する。弓道は、人間の意思力で、休むことなく左手も右手も張って張ってプツンと離れて行くことが理想なのです。つまり、それに専心することが莫妄想なのです。上手く当てようとする邪心を捨てて、詰める事に莫妄想しろと言う事です。余計な事を考える必要はない。カッコいい所を見せようとしたら、失敗する。と言われております。私などは、修行が足りず、失敗の連続です。莫妄想で、理想の射が出来るように修行し、頑張るのみです。